

お茶の水女子大学連携講座「臨海実習」

を実施しました

□実施日 事前指導：令和4年6月17日（金）・27日（月）

実習：令和4年7月2日（土）～3日（日）

□参加生徒 普通科2年2名 理数科1年3名・2年5名 計10名

□連携機関名 お茶の水女子大学 湾岸生物教育研究所（館山市）

□内容

新型コロナウイルス感染予防のため、10名に限定し、PCR検査を受検したうえで実施しました。

1日目『海洋生物の採集と分類』

バスで沖ノ島（館山市）に向かい、湾岸生物教育研究所所長の清本先生、特任助教の吉田先生と合流しました。干潮の時間に合わせ、1時間ほどの採集を行いました。主にムラサキウニ、ニセクロナマコなどの棘皮動物、シロウミウシやヒメクボガイなどの軟体動物などの他、ヒライソガニ、ヨコイソバサミなどの節足動物などの動物がいました。今年はミスガイやミドリアメフラシ、ケヤリムシなど珍しい生物も採集することができました。海岸で昼食をとった後、研究所にて同定・分類・観察を行いました。夕食後、夜の海岸でウミホタルの採集を行い、研究所でウミホタルの体のつくりについて講義を受けました。

2日目『動物の系統進化とテーマ別学習』

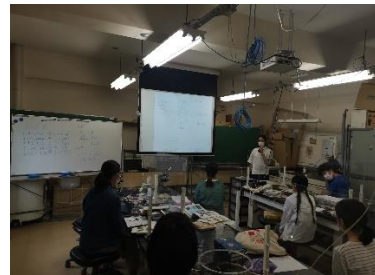
1日目に引き続き観察等を行い、対象生物についてまとめました。お昼を挟んで午後は各自のテーマに基づいた発表を行いました。質疑応答では活発な議論が行われ、系統進化を中心とした知識を深めることができました。



沖ノ島での採集の様子



研究所での観察の様子



発表の様子

□生徒の感想

・磯にこんなにも多くの生き物が生息していたことに驚いた。また、先生方と一緒に採集をすることができたので、その場で気になる生物について質問することができるのがとても良かった。また、普段絶対にできないウミホタルの採集、観察をして、今までの自分のあやふやな知識を一新することができて楽しかった。

・2日間とても楽しかった。海には自分が知らなかった生物がたくさんいて、新しい発見や驚きの連続だった。また、生物の体のつくりや生態について比較してみると意外な部分が共通していたりして面白かった。

・浅瀬でどこにどんな生物がいるかということ予想しながら石をどかしたり穴のすきまをのぞくのがとても楽しかった。